

交通安全通信

だい52ごう (夏号) 第五十二号

夏の交通安全県民運動

【期間】令和三年七月一日から七月十日までの十日間実施されます。

なお、七月七日は横断歩行者等安全対策強化の日、七月九日は飲酒運転等危険運転防止の日となっています。

夏の交通安全県民運動 7月1日～7月10日



- 【スローガン】安全をつなげて広げて 事故ゼロへ
- 【運動の重点】
 - 横断歩行者の安全確保
 - 自転車と二輪車の安全利用の推進
 - 飲酒運転等危険運転の防止
 - 自転車安全利用五則の周知・徹底

（詳細は警察本部ホームページ）

～地域交通安全センター～ スルガ自動車学校

〒424-0204 静岡市清水区東津中町5-2-1 フリーダイヤル0120-017-120

しずおか・安全横断 三つの柱

現在、静岡県警察で推進している、歩行者が道路を横断するときに自らを守る三つの安全行動「しずおか・安全横断三つの柱」について、清水警察署 交通課 齋藤警部補にお話を伺ってきました。内容については次の通りです。



1の柱 手をあげる

「二の柱」安全を確認してから横断を始めること



2の柱 左右の確認



3の柱 横断中も確認

「三つの柱」横断中も周りに気を付けること

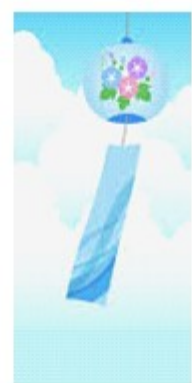
道路を横断するときには、これら三つの安全行動を実践してください。令和三年五月末現在の静岡県内における交通事故死者数は三十六人で、うち九人が高齢歩行者でした。特に、高齢者の方々にこそ、この「しずおか・安全横断三つの柱」を実践していただきたいと思いますので、ご家族にも伝えてください。



また、車を運転するとき、横断歩道で横断しようとしている歩行者がいる場合には必ず一時停止して、

楽しい夏休みにするために、色々な事故に気がつくよう！夏場に多い事故があるので、保護者の方も一緒に見てくださいね！

夏特集！ 夏休みの過ごしかた



「三つの柱」をしっかりと守り、安全に道路を横断しましょう。



歩行者の保護に努めましょう。これに違反すると、普通車の場合、九千円の反則金と二点の基礎点数が科せられることとなります。歩行者の安全確保は、道路を利用する全ての人が守るべき義務です。現在清水区では、横断歩道や道路横断中の事故が多く発生しています。皆さんも「三つの柱」をしっかりと守り、安全に道路を横断しましょう。

子どもの夏の事故

「家庭内」

浴室やビニールプールで水遊び、わずかな水でも溺れる危険あり！
 ひざの高さでも、溺れる危険があります。必ず大人の方がいる時に元気よく遊ぼう！



保護者の方へ

浴槽やプールで溺れてしまった場合、すぐに救出できても呼吸が止まってしまった場合があります。決して目を離さないでください。また、公共のプール等で溺れてしまった場合は、素早くAEDを使用してください。



「アウトドア」
 海や川での水遊び、あっという間に流される危険あり！
 一瞬で流されたり、溺れたりすることがあるため、ライフジャケットを着るなどの対策をして遊ぼう！



保護者の方へ

複数の家族で行動するときも、大人一人で子供数人の面倒を見るのは良くありません。いざという時、命を守りきれません。また海には離岸流、川には鉄砲水という危険もあります。子供だけで遊ばせずに、大人の方も一緒に水に入りますように。またいざという時の為にも、子供にはライフジャケットを着させましょう。

POINT

離岸流って？

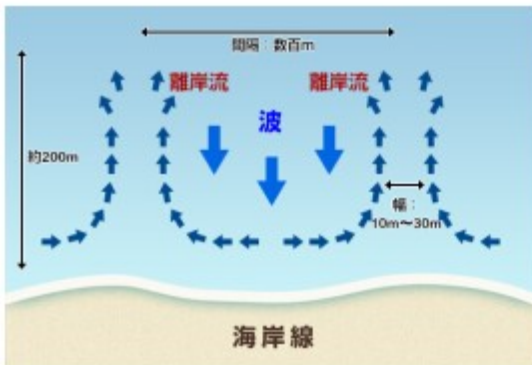


離岸流とは、海岸に打ち寄せた波が沖に戻ろうとするときに発生する強い流れのことです。この流れはかなり強く、一瞬で沖まで流されることもあります。

知って得する 対応策



離岸流に流されたら、岸と平行に泳ぎましょう！



離岸流の幅は、そこまで広くありません。岸と平行に泳ぐことによって、沖に向かう流れから脱出できます。万が一、海で何かあった場合は118番に連絡しましょう。これは海上保安庁に繋がる連絡先です。



樹木や草むらでの虫取り、虫に刺されに注意！

なるべく長袖長ズボンを着て、虫に刺される部分を少なくしよう！



保護者の方へ

子供の汗には、虫を引き寄せる物質が含まれているため、大人以上に虫に刺されやすいです。肌の露出を少なくし、虫よけスプレーなどで対策をしましょう。熱中症にも十分に気を付け、こまめな水分補給を行うようにしてください。

キャンプ場や家の外で花火、火傷に注意！
 花火をするときは、腕をしっかりと伸ばすこと！人に向けたら振り回したりしないように！



保護者の方へ

花火をする際は、必ず水の用意をお忘れなく。小さい子供と花火をする際は、大人の方も一緒に手を添えてあげてください。

また、保護者の方にお願いです。小さな子供を夏場の車内に絶対に一人にしないでください。炎天下では車内温度が七十度を超えることも。短時間で重度の熱中症になり、最悪死亡する危険があります。絶対に子供を車内に放置しないようにしてください。